

平成27年度市民討議会提言内容の進捗状況一覧表 (平成28年度末現在)

討議テーマ1	あなたにとって大切なつながりは何ですか？		
提言	市民は日常的にあらゆる場面で『つながりの必要性』を感じており『つながりたい』と考えています。反面、だんだん希薄になっていく人間関係を憂慮しています。自らコミュニティの形成を望み、行動する市民として以下のとおり提言します。		
	詳細	進捗状況	関係部署
1) 気軽に多くの市民が参加できるイベントを企画、拡大することを望みます。 例えばラジオ体操は身近で気軽に参加できるイベントです。毎年夏季に関係団体により市内の公園や小学校グラウンドでラジオ体操が実施されていますが、特定地域での開催であり、域外の市民の認知度は高くないようです。 ラジオ体操を身近な町内単位の公園に拡大することで近隣の市民が気軽に参加でき、挨拶を交わすなど基本的なコミュニティの形成が可能になります。行政には関係団体・自治会と連携して開催場所、時期の拡大を推進することを望みます。	市内のラジオ体操は「ラジオ体操連盟」が日々普及に努めています。年度毎に地域を巡回し「一斉ラジオ体操」を実施しており、地域での普及に努めました。また、市や体育協会主催のスポーツイベントの他、スポーツ推進委員が運営に関係する区の地域行事等でもラジオ体操を実施し普及に尽力しました。 一方、ラジオ体操は国民の多くが知る大衆的なものですから、小学生の夏季休暇中に実施されている子ども会主体のラジオ体操会の会場を地域の拠点となるよう、公民館での年間行事として実施し、幼児から高齢者の皆さんに参加いただいています。	文化スポーツ課 (終了)	
2) 公共交通のインフラ整備と、充実を望みます。 高齢化が進む住宅団地において、交通弱者の増加が加速しています。周辺地域と中心市街地における小型のオンデマンドバスや乗り合いタクシーの運行、またバスの一日乗車券や年間パスポートの発行などにより『まちのにぎわい』を創出し、市民の交流が促進されます。あるいは、ボランティアで交通弱者の支援を行うという市民に、車両の貸し出しや燃料費の補助を行うなどの施策を企画し、アピールすることを望みます。	多治見市総合交通戦略における公共交通の基本的考え方として、市の中心部への輸送は鉄道、路線バスが担い、コミュニティバスは、中心市街地周辺で路線バスを補完するものとしています。そのため、中心市街地への移動手段の確保、にぎわいの創出を目的とし、平成27年10月から平日昼間に運行するバスの上限運賃を200円とする制度を開始しました。また、交通弱者支援の車の貸し出し等は道路運送法上の制約もあるため、地域の実情に合った地域内交通を住民が主体となり検討・導入する支援などを行っています。	都市政策課 高齢福祉課 (終了)	
3) 公園の有効利用を望みます。 公園は多くの人が集う憩いの場です。しかし市内の公園は事故等の未然防止のために、様々な制約事項があります。市民は公園の多様な活用を通して交流機会の拡大を望んでいます。 実験的な運用として、公園を特定して球技やドッグラン、フリーマーケットなどを許可するような施策を望みます。	公園の利用ルールや遊具の選定には大前提として安全第一があります。現在でも公共の憩いの場として周りに迷惑とならない行為であればフリーマーケット等の交流の場としての利用も可能です。建設中の駅北広場でも行える予定です。また、球技ができる公園は数ヶ所あり、ドッグランは公共の公園ではありませんが、民間のものがあるようです。イベントなどを考えている方は問い合わせください。	緑化公園課 (終了)	

討議テーマ2	私たちにできる「防災」について考えよう		
提言	今後起こりうる災害に対して、私たち自身も備えることの重要性を理解しています。しかし、ハザードマップも各種情報伝達手段も十分に活用できていないと感じています。そこで、防災意識を高め災害時の被害を最小限にとどめるために、以下の提言を行います。		
	詳細	進捗状況	関係部署
1) 今までにない形の防災訓練の実施を望みます。 学校や自治会での防災訓練は実施されています。さらに参加者を増やすために、従来の防災訓練だけでなく、これまで参加していない人々が参加できるような防災訓練の実施を要望します。例えば、サバイバル講座や防災クイズ、合コンなどのイベントの要素を取り込んだ訓練などが考えられます。また防災マップ（土砂災害ハザードマップ、内水ハザードマップ）をみんなで確認するイベントなども有効と考えます。これらを通して地域全体での防災意識を高めることにつながります。	昨今、地域の自主的な防災活動が活発に行われており、地域における防災訓練においても、地域の特性を踏まえ、独自の工夫を凝らした取組みが見られます。市としては、そうした取組を支援するため、関係機関の協力により、地域においては降雨体験機の活用や災害図上訓練、マンホールトイレの設置訓練、学校においてはPTAからの要請により講座や防災倉庫資機材の紹介、マンホールトイレの展示など、新たな手法による防災訓練の実施に寄与しています。	企画防災課 (終了)	
2) 災害が起こったことを想定し、必要となる情報の提供を望みます。 市や自治会でも災害時の準備をしていますが、市民がそれらを十分に把握できておらず、災害時に有効活用できないのではないかと心配しています。 各地区の備蓄倉庫の状況を周知してもらうとともに、各家庭で必要となる備蓄リストの情報を教えてもらえれば、私たちの準備も容易になります。 また、ペットも家族同様と考える人が増えていますので、他の自治体で一時的に受け入れてもらえるようなくみがあると安心です。	市が設置する49箇所の防災倉庫及び備蓄資器材については、市ホームページに掲載するとともに、おとどけセミナー等の機会に紹介しています。また、市総合防災訓練で防災倉庫資器材の取り扱い訓練を行うほか、地域で行う訓練等において、非常食が体験できるようサバイバルフーズを提供しています。 ペットについては、市が作成した避難所運営マニュアルにおいて、一定の受入ルールを定めています。	企画防災課 (終了)	

討議テーマ 2	私たちにできる「防災」について考えよう	
提言	今後起こりうる災害に対して、私たち自身も備えることの重要性を理解しています。しかし、ハザードマップも各種情報伝達手段も十分に活用できていないと感じています。そこで、防災意識を高め災害時の被害を最小限にとどめるために、以下の提言を行います。	
詳細	進捗状況	関係部署
3) 災害時に必要な情報が確実に受け取れるしくみの整備を望みます。 現在でも防災無線やメールサービス等は実施されています。ただこれらが災害時にどのように機能するのか、私たちがしっかりとイメージをつかんでおくことが重要だと思います。 FMPiPiやケーブルテレビ、インターネット及び防災無線等が災害時にどのように機能するかの検証をするとともに、必要に応じて事前訓練を行うことも検討して頂きたい。また駅前に大型ビジョンを設置するなど、普段から防災情報を流すことで防災意識の高揚を促すとともに、災害時には情報発信源として活用できると考えます。	FMPiPiによる緊急放送訓練やおりべの文字テロップ訓練は随時実施しており、実際にその内容が放送されています。 また、新しい災害情報の伝達方法については、駅北大型テレビジョンの今後の完成など、日々技術の進歩により、新しい仕組みができてきています。こうした方法を取り入れるよう常に研究を続けており、導入可能なものから運用を始めています。さらに、全国瞬時警報システム（J-ALERT）などを活用した訓練も適宜実施しているところです。	企画防災課（終了）

討議テーマ 3	私たちにできる「防犯」について考えよう	
提言	市民の多くはどんな犯罪が身近で起こっているのか、リアルタイムな情報をいち早く知りたと思っています。またその情報を防犯に活かさないかを考えています。そしてその中でも自分に出来ることはないか？他の人とともに協力出来る事がないかを模索しています。それを実現するために以下の提言を行います。	
詳細	進捗状況	関係部署
1) 統一した防犯グッズの作成を望みます。 自分の家族のためだけでなく、防犯グッズを身に付けて、周りの人への声掛けや、散歩を兼ねた地域の見廻りをする事で、「まちの目」としての防犯効果を高めることが出来るのではないかと考えます。その具体的な方法として、多治見市独自のオリジナル防犯グッズ（例えば「見えます！」ステッカーや、防犯タスキ、防犯をアピールした傘など）を作成することにより防犯意識を高めていきたいと思います。	防犯グッズにつきましては、これまで東濃西部地区防犯協会などと作成したベストや帽子を市内で活動している団体に活用していただいています。今後も積極的に配布していきます。また、グッズについては、各種団体と協力し効果的なものを作成していきます。	くらし人権課（終了）
2) メールや広報を利用したリアルタイムな情報の提供を望みます。 現代において、振込詐欺やインターネット詐欺など犯罪が多様化している中で、未然に犯罪を防ぐには、リアルタイムな犯罪情報の共有が重要ではないかと考えます。多治見市や学校の不審者情報メール、警察からのメール情報などはあるものの、十分に利用されていないようです。また情報が遅延することにより新たな被害者が出る懸念があります。 市民がリアルタイムで知ることが出来るような防災無線を利用した犯罪情報の提供など、市民がいち早く犯罪情報を共有できるような仕組みを望みます。	防災行政無線につきましては、災害に伴い身体生命に危機が迫っている場合の情報伝達を最優先としています。このため、防犯情報につきましては、一定のルールを設けて運用しています。ただし、防災無線による広報が被害拡大防止につながる場合には、警察と協議して放送を実施することとしています。（メールについても同様の考え方です）	企画防災課（終了）
3) みんなで防犯意識を高めるような機会の創出を望みます。 市民は多治見市でどんな犯罪が起きているのか知りたいと思っています。個々の防犯意識は高いものの、地域として、または市として犯罪情報等の共有や連携が十分でないと感じています。またお互いに協力して何かをしたいとも思っています。 そこで地域としての防犯意識を高められるような機会の創出（例えば個々でつながりが持てるような防犯セミナーや、実際に犯罪に遭った方の体験談など）を望みます。そのような機会の中から、地域パトロール等の自主防犯組織が設立されるような意識改革が出来るのではないかと考えます。	近年、犯罪件数は減少傾向にあるものの依然凶悪犯罪が後を絶ちません。市民の方に防犯意識を高めていただくため、現在、毎月（1月を除く）東濃西部地区防犯協会が発行している「セーフティサポート」を町内回覧し、安心安全の啓発をしているところです。今後は、更に広報たじみを通じて防犯意識を高める啓発の検討を行っていきます。また、団体で防犯についてセミナー等の開催を希望されるときは、岐阜県から講師等の派遣も可能です。希望される団体があれば、くらし人権課にご連絡ください。	くらし人権課（終了）